

教科名	国語科	科目名	国語総合	単位数	6 単位
対象学年	第1学年 普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
学習目標	言葉を的確に理解し、表現を味わい、国語への関心を深めるとともに読解力・表現力の向上を目指す。古典においては、それぞれの時代背景や生き方に関心を持たせ、古文・漢文の響きを味わう。				
進め方	教科書・板書を中心に講義を進める。必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を行って、理解を深めさせるよう考慮する。又、古典においてはシラバスに掲載していない他の関連作品なども取り上げ、古典への関心を更に深めさせる。				
評価の観点 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも定期考査の点数と平常点、出席点で評価する。平常点20点は授業態度、意欲、提出物、単元別小テストの4項目各5点で総合的に評価する。				
使用教材	三省堂『高等学校 国語総合 改訂版』 尚文出版『常用漢字クリア』 その他自主教材				
その他	漢字テストは前もって範囲を提示し、週1回実施する。				

**年 間 授 業 計 画**

月	学習項目	時間数	学習到達目標
4	1、現代文 随想 祝福の言葉 2、古典 「田舎の児桜を見て泣くこと」 五十歩百歩 訓読のしかた	6 6 6	随筆では、目田な発想から生まれたものの考え方、感じ方を読み取る。古文は古典への興味を喚起し、漢文は訓点の働きを理解し、故事や格言を訓読することで、漢文を読む面白さを知る。
5	1、現代文 評論 水の東西 作文 「私を紹介します」 2、古典 「大江山」 「借虎威」 (中間考査)	6 6 6 6	評論分では、西洋と日本の水に対する意識の違いを確認させる。また、作文によって自分を表現することの大切さを知る。古文は訳をできるように促し、漢文も書き下し文ができるようにする。
6	1、現代文 小説 羅生門 少女 2、古典 用言の活用・係り結び 「公世の二位のせうとに」	6 6 8 4	小説では、作中人物の心情を読み取り、「人間」と「ころ」のありようを探る。また、作中人物の思春期における揺れるところを読み取る。古典では文法の基本的事項を理解して、文章で慣れる。
7	1、現代文 評論 情報流 表現 「本を紹介しよう」 (期末考査) 2、古典 古文 「ある者、子を法師になして」 漢文 「蛇足」	4 2 3 3	小説では、作中人物の思春期における揺れるところを読み取る。古典では用言の練習問題、訓読・書き下し文などの練習問題を通じ、基本事項を確認する。
8	1、現代文 評論 命は誰の者なのか 2、古典 古文 「ある者、子を法師になして」	3 3	評論を読み、「命の私有化」について作者の例から対峙をさせる。また、古典では吉田兼好の人間観察の鋭さを指摘し、さらに用言の活用について復習する。
9	1、現代文 評論 地球の有限性と人間 2、古典 古文 「名を聞くより」「花は盛りに」 助動詞の用法 漢文 「漢詩八首」	4 6 4 4	評論文を通じて、人間と自然の共生について、論を深める。また、古文では助動詞を扱い、文章について徹底的に理解できるようにする。漢文は、漢詩の形を詳しく理解できるようにする。
10	1、現代文 詩 レモン哀歌、およくひと (中間考査) 2、古典 古文 「芥川」 漢文 「漢詩八首」	8 5 5	詩ではそれぞれの作品世界の理解を深め、詩人たちの個性に触れる。古文は「歌物語」を通じて、和歌の読解と鑑賞方法を理解する。漢文は、漢詩の叙情の深さを味わえるようにする。
11	1、現代文 詩 猫、骨 2、古典 古文 「東下り」 助動詞の復習 漢文 「漢詩八首」 (期末考査)	8 6 4	詩の世界を通じて、作者の人生観や生き様について理解させる。また、古文は助動詞を中心として、文章表現力を高めると共に、和歌の技法を味わう。漢文は、漢詩表現の難しさを理解させる。
12	1、現代文 詩 崖 表現 「新聞に投書してみよう」 2、古典 古文 助動詞の復習 漢文 句法練習	4 2 3 3	詩の世界観について復習すると共に、新聞に投書をする形式によって、文章表現能力を高める。古文は教科書の中から、助動詞を抜き出し、意味を理解させると共に漢文の句法を意識させる。
1	1、現代文 経論 ものとことば 2、古典 古文 つひにゆく道 漢文 句法練習	8 6 4	比較的平易な文章から、普段使っている「言葉」の本質について触れていく。古文は和歌から心情を理解できるようにさせる。また、漢文の句法について、反復して、復習を行う。
2	1、現代文 表現 手紙の書き方 2、古典 古文 助詞の用法 漢文 鶏鳴狗盗 (学年末考査)	8 4 12	手紙の書き方を通じて、文章表現力を高める。古文では助詞を扱い、現代語との違いを再認識する。また、漢文は今までの復習として、鶏鳴狗盗を精読し、句法について触れていく。
3	1、現代文 読解練習問題 2、古典 古文 文法のまとめ 漢文 句法練習	6 6 6	現代文は、今までの文章を通じて読解方法について再認識できるようにする。また、古文・漢文は「文法」「句法」について、総復習をしていき、来年度には自由に文章が読めるように指導する。

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2単位
対象学年	第1学年 普通科 類、類	履修形態	必修	授業形態	一斉授業
科目の目標	広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断し、自ら人間としての在り方、生き方について考える力の基礎を養い、公民として必要な能力と態度を身につける。				
学習内容の概要	「現代に生きるわたしたちの課題」 「現代の社会と人間」				
学習方法	教科書・学習ノートの活用を中心に、日常的な事柄を新聞・ニュースなどを通してみる学習活動。現代社会が直面する様々な問題に対して、調べ学習・ディベート・プレゼンテーション等を通じ、自らすすんで取り組む力を養う主体的学習活動。				
評価の観点・ 評価方法	評価の観点は、現代社会と人間に関する関心とよりよい社会の実現に向けて参加しようという意欲・態度・広い視野に立った思考・判断、基本的な知識・理解、資料活用等の技能・表現力とする。 具体的評価として、定期考査・各課題等の提出状況・出席状況等をもとにし、総合的に評価する。				
使用教材	東京書籍「現代社会017」 東京書籍「現代社会演習ノート」				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	「現代の経済と国民福祉」	経済のしくみ	2 2 2	現代経済の焦点を新聞記事、資料集等を用い、導入したい。自らの暮らしと経済が密接な関わりがあることを理解させる。	入学式
5	「現代の経済と国民福祉」	政府の経済的役割	2 2 2	政府の国民生活に関わる役割の重要性を深めてゆきたい。」 又、戦後の日本経済の歩みを確認し、理解を深めて行きたい。	
6	「現代の経済と国民福祉」	変化する日本経済	2 2 2	中小企業・農業の抱える問題、又、介護・年金・リストラ等、具体的な生活や時事問題を結びつけて指導したい。	
7	「日本国憲法と民主政治」	民主政治とは・・・	2 2	民主政治の基本原則を確認する。	期末考査 終業式 夏期補習
8	(調べ学習) 「日本国憲法と民主政治」	民主政治とは・・・	2	(夏期休業中の課題として) 世界の政治体制の確認を中心とする。	始業式
9	「日本国憲法と民主政治」	日本国憲法と基本的人権 国会・内閣・裁判所	2 2 2 2	国民生活と憲法が深く関わっていることを確認し、人権尊重の精神を確認させたい。 日本の政治機構(三権)確認。	
10	「日本国憲法と民主政治」 「国際社会と人類の課題」	政治参加と民主政治 国境をこえる経済	2 2 2 2	日本の政治機構(三権)についての理解を基に国民の政治参加の重要性を深めてゆきたい。」	中間考査
11	「国際社会と人類の課題」	ボーダーレス化の中の地域 国際社会の成立と戦後の動き	2 2 2 2	私達の日常の暮らしがいかにか世界と結びついているか、貿易拡大の影響についてもふれたい。	
12	「国際社会と人類の課題」	国際社会の課題	2 2 2	民族・宗教等の対立・紛争の現状を確認させ、平和を願い、個人の役割にまで発展させたい。	期末考査 終業式 冬期補習
1	「現代の社会と人間」	現代社会の特質とわたしたちの生活 現代社会の青年の生き方	2 2 2 2	21世紀を生きる私たちの暮らしが真に豊かなものとなるためには何が大切となるのかを気づかせたい。	始業式
2	「現代の社会と人間」	よりよく生きることを求めて	2 2 2	現代社会の特質や青年期の意義および宗教や芸術について自らの課題として問題を捉え、主体的な生き方を考えさせたい。	学年末考査
3	「現代社会のまとめ」	学習のふりかえり 学習ノート・プリントのまとめ 重要語等のまとめテスト	2 2 2	この1年間の学習を今一度、ふりかえることによって改めて現代社会の諸問題と自己との関わりに注目させたい。	終業式

教科名	数学	科目名	数学	単位数	4 単位
対象学年	第1学年(普通科) 特別進学コース 類	履修形態	必修	授業形態	習熟度2分割/ 一斉授業
科目の目標	大学センター入試で7割以上を得点できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	文字式の計算、実数、1次不等式、2次方程式について学ぶ(方程式と不等式)。関数とグラフの関係、2次関数のさまざまな特徴を調べ、関連して2次不等式について学ぶ(2次関数)。三角比について学び、図形の性質を量的に調べ、さらに相似な図形の面積比や体積比について学ぶ(図形と計量)。				
学習方法	教科書の内容を中心に学習し、問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	数研出版 改訂版 数学 数研出版 4STEP数学 +A 数研出版 チャート式 解法と演習 数学 +A				
その他	類は毎週1回の平日課外学習で、授業を終えた範囲の演習(80分)、3週に2回の土曜講習で同様の演習を行う(90分)。類も希望者に対して同様の指導を行う。類と 類の進度はそろえる。増単位(1単位)の中で数学Aの「平面図形」も扱うものとする。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	方程式と不等式	式の計算	4 4 4	多項式 多項式の加法・減法と乗法	始業式 新入生合宿
5			4 4	因数分解	中間考査
6		実数 1次不等式と2次方程式	4 4 4 4	実数 1次不等式 2次方程式	
7	2次関数	2次関数とグラフ	4 4	関数とグラフ	期末考査 終業式 夏期講習・夏期合宿
8			4	2次関数のグラフ	夏期後期講習 始業式
9			4 4 4 4	2次関数の最大と最小 2次関数の決定	
10		2次関数のグラフと2次不等式	4 4 4	2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式	中間考査
11	図形と計量	三角比	4 4 4 4	正接・正弦・余弦 三角比の相互関係 三角比の拡張	
12		正弦定理と余弦定理	4 4	正弦定理・余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用	期末考査 終業式
1		図形の計量	4 4 4	三角形の面積 球の体積と表面積 相似と計量	始業式
2	平面図形	三角形の性質 円の性質	4 4 4	三角形の辺の比 三角形の外心・内心・重心 円周角	期末考査
3	三角関数		4 4 4	円に内接する四角形 円と直線 方べきの定理	終業式

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2 単位
対象学年	第1学年(普通科) 特別進学コース 類	履修形態	必修	授業形態	習熟度2分割/ 一斉授業
科目の目標	大学センター入試で7割以上を点数できるように指導し、科目の総合的理解を図るとともに、個別学力試験に通用する十分な基礎力をつける。				
学習内容の概要	集合の基礎、順列・組み合わせについて学んだ後、確率の考え方を学ぶ(場合の数と確率)。論理と集合の関係、背理法について学ぶ(論理と集合)。三角形や円など平面図形の性質について学び、論証の方法を身につける(平面図形)。				
学習方法	教科書の内容を中心に問題集で反復演習を行い、入試問題を用いて実戦演習を行う。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	数研出版 改訂版 数学A 数研出版 4STEP数学 +A 数研出版 チャート式 解法と演習 数学 +A				
その他	類は毎週1回の平日課外学習で、授業を終えた範囲の演習(80分)、3週に2回の土曜講習で同様の演習を行う(90分)。類も希望者に対して同様の指導を行う。類と類の進度はそろえる。「平面図形」は数学の増単位(1単位)の中で扱うこととする。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	場合の数と確率	集合とその要素の個数	2 2 2	集合	始業式 新入生合宿
5		場合の数	2 2	集合の要素の個数 場合の数	中間考査
6			2 2 2	順列 円順列、重複順列、数珠順列	
7			2 2	組み合わせ	期末考査 終業式 夏期講習・夏期合宿
8			2		夏期後期講習 始業式
9			2 2 2	二項定理	
10		確率	2 2 2	事象と確率	中間考査
11			2 2 2	確率の基本性質 反復試行の確率	
12			2 2	独立な試行の確率	期末考査 終業式
1			2 2 2	反復試行の確率	始業式
2			2 2 2	期待値	期末考査
3		集合と論理	2 2 2	条件と命題 逆・裏・対偶	終業式

教科名	理科	科目名	理科総合A	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 普通科	履修形態	必修	授業形態	単独
科目の目標	大学受験を目指す生徒に対し、自然科学における一般的な教養を身につけさせることを目標にしている。				
学習内容の概要	自然界における現象を基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。				
学習方法	実験や視聴覚教材を利用し、演習問題を通して教科書の内容を理解させる				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	教科書、数研出版 高等学校 理科総合A				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行なう				

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	私たちのくらしと物質	第1章 物質の構成と変化 1 物質の構成単位 2 物質を構成する粒子 3 相対質量と粒子の数 4 化学変化 5 物理変化 6 酸と塩基の反応 7 酸化還元反応 章末問題	28	原子の構造からイオン・分子・金属のでき方を理解し、原子・分子・イオンの質量を扱った原子量・分子量・式量の概念を学ぶ。アボガドロの法則その他の関係から、物質の量とそこに含まれる粒子の数の関係を理解し、基本的な化学反応式を書けるようにし、係数から物質の量的関係についても導くことができるようにする。酸や塩基の性質を理解させ、酸や塩基が電離して生成する水素イオンや水酸化物イオンの数と酸や塩基の強弱、pHの関係を理解させる。中和反応における水素イオンや水酸化物イオンの量的関係を理解して、熱の出入りや電気伝導性の変化から、中和反応のしくみがわかることを学ぶ。酸化還元反応が電子のやり取りであることを理解し、酸化・還元と酸化剤・還元剤の関係について学ぶ。人間がエネルギーを使って、自然界の物質から純物質を取り出したり、新しい有用な物質をつくり出してきたことを確認する。生物内で起こる代表的な化学反応を学び、生物の生命を維持する栄養素についても理解させる。多くの食品や医薬品への応用につながっていることや酵素反応の効率の良さを工業生産のモデルにしていることなどを学ぶ。	始業式
5		中間考査			
6		期末考査			
7		終業式 夏期補習			
8		始業式			
9	私たちのくらしと資源・エネルギー	第1章 いろいろなエネルギー 1 運動の表し方 2 力と運動 3 仕事 4 力学的エネルギー 5 熱とエネルギー 6 電気エネルギー 7 エネルギーの移り変わり 章末問題	34	物体の運動を表す速度や加速度などの物理量について理解させる。複数の力がはたらくとき、これらの力の間に成り立つ関係(つりあい、作用・反作用)についても理解させる。仕事の原理をいろいろな実例から理解させる。運動エネルギーの定義とその表し方、仕事との関係について理解させる。力学的エネルギーが一定に保たれる現象について考えさせ、力学的エネルギーがどのような場合に保存されるかを理解させる。温度とは粒子の熱運動の激しさを表すものであることを学び、比熱や熱の伝わり方を学び、さらに熱の仕事への変換についても理解させる。電流の性質やオームの法則を理解させる。電気や電力量の定義を学び、電流によって発生するジュール熱についても理解させる。エネルギーの移り変わりを理解し、エネルギーの有効利用についても考えさせる。エネルギー資源の種類について学び、いろいろな発電方法とそのしくみについても理解させる。エネルギー消費を私たちの生活様式から理解し、エネルギー資源を有効利用する方法について考えさせる。鉄・アルミニウム・銅などの原料となる金属資源の分布や鉱床の種類などについて学ぶ。また、金属資源の開発についても理解して、リサイクルの必要性について考えさせる。コンクリート・ガラス・プラスチックなど身の回りの素材や、化学工業などに、さまざまな非金属資源が用いられていることを理解させる。	中間考査
10		期末考査			
11		終業式			
12		始業式			
1		始業式			
2	科学技術の進歩と私たちのくらし	第1章 温暖化のメカニズムを知る 1 太陽のエネルギーの流れ 2 CO <sub>2</sub> の循環とその影響 第2章 温暖化の対策を考える 1 くらしの中の対策 省エネルギー 2 科学技術による対策	8	二酸化炭素その他の温室効果ガスがもたらす温暖化のメカニズムについて理解させる。温室効果ガスである二酸化炭素に着目し、その地球規模による循環を学ぶ。また、人間活動による二酸化炭素増加の原因について調べ、その解決方法について考察させる。新技術による省エネルギー対策について学ぶ。また、エネルギーに関する科学技術について調べ、その内容をまとめることで理解させる。	期末考査
3		終業式			

教科名	理科	科目名	生物	単位数	4 単位
対象学年	第1学年 普通科	履修形態	必修	授業形態	単独
科目の目標	大学受験を目指す普通科の生徒に対し、自然科学の一般的な教養を身につけさせると同時に、センター試験・2次試験に必要な最低限の学力をつけさせることを目標にしている				
学習内容の概要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う				
学習方法	演示実験や生徒実験および視聴覚教材を利用しながら教科書の内容を理解させる。また、問題演習を通じて思考力や計算力を身につけさせる				
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期・三学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。平常点20点は授業態度・実験観察の態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	教科書、数研出版 生物 問題集、数研出版 生物 資料集、実教出版 生物総合資料				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて課外授業や宿題提出を行なう				

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時 間	学 習 の ポ イ ン ト	主 な 学 校 行 事
4	細胞と個体の成り立ち	生命の単位－細胞	8	細胞が生物の基本単位であること、細胞小器官の構造、動・植物の細胞の違いについて理解させる。	始業式
5		細胞膜と物質の出入り 細胞の動きと酵素 細胞の増殖と分化	15	細胞膜の構造と働き、細胞分裂のしくみと意義、細胞分裂の過程での染色体の移動、動・植物の体のつくり、その種類・構造・働きを理解させる。	中間考査
6	生殖と発生	生殖 生殖細胞の形成 動物と植物の生殖 動物の発生	15	色々な生殖法、減数分裂のしくみ、受精、発生の過程やしくみについて理解させる。	期末考査
7		動物の発生のしくみ	7	胚の予定運命、形成体の役割について理解させる。	終業式 夏期補習
8	遺伝	遺伝の法則	4	Mデルの法則を理解させ、その法則による様々な遺伝現象を理解する。	始業式
9		いろいろな遺伝 遺伝子と染色体 遺伝子の本体	15	遺伝子が染色体中に存在すること、連鎖・組換えの概念を用いて遺伝現象が説明できること、DNAが遺伝子の本体であることを理解させる。	
10	刺激の受容と反応	刺激の受容から反応まで 受容器と効果器	15	受容器から効果器についてのながれを理解し、それぞれの構造としくみについて理解させる。	中間考査
11		神経系 動物の行動	15	神経の伝導・伝達のおのりについて理解する。また、様々な動物に見られる行動パターンは何に基づいて行われているかについて理解させる。	
12	内部環境の恒常性	内部環境としての体液 体液の恒常性	12	内部環境を維持するために体液がどのような役割をしているかを理解させる。	期末考査 終業式
1		自律神経系とホルモンによる調節 刺激と植物の反応	11	自律神経系と様々なホルモンが関連して体の恒常性の維持に関わることを理解させる。	始業式
2	植物の反応と調節	成長の調節 花芽形成と発芽の調節	15	一連の実験結果から成長促進に関わる植物ホルモンの特徴、暗期の長さや花芽形成のしくみについて理解させ、知識を身につけさせる。	期末考査
3		植物生活と水 植物生活と光	11	植物の水の吸収と移動・蒸散のしくみ、光合成のしくみと環境要因について理解し、知識を身につけさせる。	終業式

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 普通科男子	履修形態	必修	授業形態	合併クラス単位
科目の目標	高等学校の体育の学習では、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わいながら、心身の発達の為の体力や技能を高めるとともに、現在から未来に向けての運動やスポーツへの「親しみ方」や「楽しみ方」を身につけていく。				
学習内容の概要	運動やスポーツの基礎・基本や安全について、しっかり学習し、自分で計画、工夫していける能力を高める。				
学習方法	陸上・マット運動・サッカーを通して、グループ活動の中で協調性を養う事で、関心や意欲を高めるとともに互いに協力して運動ができるようにする。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも実技試験と平常点で評価する。平常点20点は授業態度や意欲、出席点で評価する。				
使用教材					
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事			
4	陸上	跳躍	2	自己の能力に応じた課題を 目指し計画的な練習の仕方を 工夫する。	始業式 新入生合宿			
5		投てき	2		2 2 2	中間考査		
6			競走				2	2 2
7							跳躍・投てき・競走	
8		マット運動	説明、グループ分け、目標設定		2	自己の能力に応じた目標を立てる。 体の各部分を自分の意志で 動かせるようにする。	始業式	
9			柔軟運動、筋力トレーニング		2		マット運動において基礎となる 技術の習得を目指す。	体育祭 中間考査
10			柔軟運動、筋力トレーニング バランス系、ジャンプ系		2			
11	倒立 評価 前転、後転		2 2 2					
	評価 側方倒立回転 評価		2 2 2					
12	サッカー	パス	2 2 2	パスの種類を覚える。 正しいパスの仕方を学ぶ。 ルールを学ぶ。	期末考査 終業式			
1		ドリブルシュート	2 2 2		ドリブルとシュートのタイミング に注意しながら練習する。	始業式		
2		ゲーム	2 2 2	協調性を高める学習をする。	入試 期末考査			
3					2 2	2 2	終業式	

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 普通科女子	履修形態	必修	授業形態	合併クラス単位
科目の目標	高等学校の体育の学習では、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わいながら、心身の発達の為の体力や技能を高めるとともに、現在から未来に向けての運動やスポーツへの「親しみ方」や「楽しみ方」を身につけていく。				
学習内容の概要	運動やスポーツの基礎・基本や安全について、しっかり学習し、自分で計画、工夫していける能力を高める。				
学習方法	陸上・創作ダンス・バスケットボールを通して、グループ活動の中で協調性を養う事で、関心や意欲を高めるとともに互いに協力して運動ができるようにする。				
評価の観点・評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも実技試験と平常点で評価する。平常点20点は授業態度や意欲、出席点で評価する。				
使用教材					
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事			
4	陸上	跳躍	2	自己の能力に応じた課題を 目指し計画的な練習の仕方を 工夫する。	始業式 新入生合宿			
5		投てき	2		2	中間考査		
6			競走				2	2
							2	
7		跳躍・投てき・競走	2		測定。	期末考査 終業式 夏期補習		
8		創作ダンス	班作り・曲選び		2	グループで話し合いをする。 互いに協力して作成・練習する。 6時間に1回発表。少しずつでも 進めていく努力をする。	始業式	
9			ダンス作成・練習		2		2	2
10	中間発表		2	2	2			
	ダンス作成・練習		2				2	2
11	中間発表		2	2	2			
12	ダンス作成・練習	2	2			2		
1	バスケットボール	最終発表		2	進めていく努力をする。 互いに協力して作成・練習する。		文化祭	
		パス	2	2		2		
1	ドリブルシュート	2	2		2		期末考査 終業式	
2	ゲーム	2		2		2	始業式	
3			2		2		2	入試 期末考査
				2		2		2

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1 単位
対象学年	第1学年 普通科	履修形態	必修	授業形態	学級単位
科目の目標	自らの社会生活における健康、安全について理解し自分自身の健康を正しく管理、改善していく能力を育てる。				
学習内容の概要	わが国の健康について考え、健康を保持増進し、正しい生活行動を選び実践する事や環境を改善していく努力の重要性を理解できるようにする。				
学習方法	各項目を通して学ぶ事によって関心や意欲を高める。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、1学期・2学期・3学期とも筆記試験と平常点で評価する。平常点30点は授業態度や意欲、出席点で評価する。				
使用教材	VTR(喫煙と健康。飲酒と健康。感染症とエイズ。私達の健康とヘルスプロモーション)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	わたしたちの健康のすがた	わが国における健康水準の向上	1	どのように健康水準が向上したか学ぶ。	始業式 新入生合宿
		わが国における健康問題の変化	1		
5	健康のとらえ方 さまざまな保健活動 や対策	健康についてのさまざまな考、健康の成り立ちと健康増進する方法	1 1 1	健康とはどういう状態か学ぶ。 どのような保健活動や対策があるのか学ぶ。	中間考査
		わが国や世界における健康のための活動(ビデオも見せる)	1		
		ヘルスプロモーションにもとづく活動(ビデオも見せる)	1		
7	生活習慣病と日常の生活行動	生活習慣病	1 1	健康的な生活習慣とは何か学ぶ。	期末考査 終業式 夏期補習
8		健康の基本	1		始業式
		喫煙と健康	1 1 1	喫煙の問題をさまざまな角度から考え、どのような対策が必要か学ぶ。	体育祭
10	飲酒と健康	アルコールの作用 長期飲酒の健康影響 飲酒にたいする対策	1 1 1	アルコールの問題をさまざまな角度から考え、どのような対策が必要か学ぶ。	中間考査
11	薬物乱用と健康	薬物乱用の健康影響 薬物乱用が引き起こす社会問題。薬物乱用に対する対策	1 1 1	薬物乱用の問題をさまざまな角度から考え、どのような対策が必要か学ぶ。	文化祭
12		飲酒のビデオを見る 喫煙のビデオを見る	1 1		期末考査 終業式
1	医薬品と健康	医薬品の役割 医薬品の使い方 医薬品の安全性のための予防	1 1 1	医薬品を正しくつかいのためのポイントを学ぶ。	始業式
2	感染症とその予防	今日、注意すべき感染症 新たな感染症問題とその予防対策	1 1 1	新たな感染症問題の防止のため自分のやれる事、社会がすべき事を学ぶ。	入試 期末考査
3	エイズとその予防	全人類の課題 エイズへの対策 エイズとその予防のビデオ	1 1 1	エイズの実態について日本、世界の状態を学ぶ。	終業式

教科名	外国語（英語）	科目名	オーラル・コミュニケーション	単位数	2単位
対象学年	第1学年 普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	分割授業 (2分割) 両分割共通
科目の目標	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養う。 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。				
学習内容の概要	教科書及びその関連した言語材料を用い、4領域のうち、聞く及び話すという音声によるコミュニケーション活動を中心に行う。				
学習方法	チーム・ティーチングやペア・ワーク、視聴覚教材を用いて、実践的及び主体的なコミュニケーション活動を行う。				
評価の観点・評価方法	1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	「Birdland Oral Communication」吉田研作他著(文英堂) 「VITAL4500[標準]英単語・熟語」吉田研作監(文英堂)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	Lesson 1	ニックネームなどを中心に自己紹介を行う	4	自己紹介に関する各種表現	入学式、新入生テスト 新入生合宿
5	Lesson 2	教科、行事などを中心に学校紹介を行う	4	学校生活に関する各種表現	中間考査
	Lesson 3	音楽、本などを中心に自分の趣味を紹介する	4	趣味に関する各種表現	
6	Lesson 4	映画やテレビ番組の長所や短所を説明しながら紹介する	3	映画/テレビに関する各種表現	期末考査
7	Review	期末考査解答解説	1 2		進研模試 終業式
8	Lesson 5	様々な食べ物の説明の仕方や勧め方を学ぶ	4	食事に関する各種表現	始業式 河合模試
9	Lesson 6	病気の説明の仕方や、それに対する助言の仕方	4	健康に関する各種表現	進研模試
	Lesson 7	将来家庭を持ったらどう家事分担するのか考え発表する	4	家事に関する各種表現	
10	Lesson 8	中間考査解答解説 自分たちの住む社会での風習を説明する	3 3	習慣に関する各種表現	中間考査 進研模試
11	Lesson 9	自分たちの修学旅行を計画して、紹介する	3	旅行に関する各種表現	
	Lesson 10	自分自身のショッピングについて紹介する	3 1	買い物に関する各種表現	期末考査
12	Review	期末考査解答解説	1 6		終業式
1	Lesson 11	自分たちのパーティーを立案し、発表する	4	パーティーの各種表現	始業式 進研模試
2	Lesson 12	自分自身の進路についての展望を発表する	4 1	進路に関する各種表現	期末考査
	Review	期末考査解答解説	1 10		
3					駿台模試 終業式

教科名	外国語（英語）	科目名	英語	単位数	4単位
対象学年	第1学年 普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	分割授業 （2分割） 両分割共通
科目の目標	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養う。 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。				
学習内容の概要	教科書及びその関連した言語材料を用い、4領域を総合的、有機的に関連付けたコミュニケーション活動を行う。				
学習方法	文法事項の形態から伝達の意味内容に発展できるように、運用すべく多くの場面を通して、生きた英語運用能力を身に付ける。				
評価の観点・評価方法	1学期・2学期・3学期とも、定期考査の考査点と平常点・出席点で評価する。 平常点20点は授業態度・意欲・提出物の状況・理解度の4項目各5点で評価する。				
使用教材	「CROWN English Series」霜崎實他著(三省堂) 「六訂版チャート式シリーズ基礎からの新総合英語」高橋潔・根岸雅史編(数研出版) 「CROWN English Series WORKBOOK (STANDARD)」三省堂編修所著(三省堂)				
その他					

年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	1. New Faces, New Places	自己紹介の形式	11	5文型、不定詞	入学式、新入生テスト 新入生合宿
5	2. When I Was Sixteen	中間考査解答解説 スピーチの形式	1 2 10	現在完了形、不定詞、動名詞、 S+V+O(O=疑問詞節/if節)	中間考査
6	3. Abu Simbel	レポート記事の形式	11	関係代名詞、分詞の形容詞的 用法、S+is+C(C=that節)	期末考査
7	R1. Fast Food	期末考査解答解説 小説の形式	1 2 8		進研模試 終業式
8			1		始業式 河合模試
9	4. Punana Leo	スピーチの形式	9	過去完了形、seem、 S+V+O+C(C=原形不定詞)	進研模試
10	5. Diving into Mystery	プレゼンテーションの形式	10	関係副詞、S+V+O+C(C=分詞) 受動態の完了形	中間考査
11	6. Living with Chimpanzees	中間考査解答解説 インタビューの形式	1 2 11	分詞構文、it~that...	進研模試
12	7. Not So Long Ago	スピーチの形式	11	時制の一致 仮定法過去、 S+V+O1+O2(O2=疑問詞節) with+名詞+形容詞など	期末考査
12	R2. The Green Door	期末考査解答解説 小説の形式	2 10		終業式
1	8. Good Ol' Charlie Brown	新聞記事の形式	7	仮定法過去完了、no matter+ 疑問詞、be+to+動詞の原形	始業式
2	OL. The Making of Scientific Revolutions	論説文の形式	7		進研模試
2	Review	期末考査解答解説	1 2 16		期末考査
3					駿台模試 終業式

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2 単位
対象学年	第1学年 普通科	履修形態	必修	授業形態	男女共修
科目の目標	人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活について学び、自分の生命、未来の生命を個人・家族・社会の協力でどのようにすこやかに育てていこうかを考え、生活充実向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	1. 人の一生と家族 2. 子どもと高齢者の生活と福祉 3. 食生活における健康と安全 4. 消費生活と資源・環境 5. 衣生活と住生活における健康と安全 6. ホームプロジェクト				
学習方法	新聞等で社会の動きを把握するとともに、自分の家庭及び地域の実態にも目を配り、そこに存在する生活課題を見つけ、課題意識を持つ。 問題解決の過程を大切に、授業で身に付けた知識や技術を日常生活の中で生かし、日々の生活改善、充実に努める。				
評価の観点・評価方法	評価の観点は 家庭科への関心、意欲、態度 生活課題を主体的に解決するために思考、判断 基礎的、基本的な技術の習得状況 知識、理解 の4項目とする。 評価の方法は、規定に従い考査の成績とノート、プリント提出状況、実習への参加、態度などを各学期ごとにまとめる。また、授業中の学習態度、出席状況について考慮し、総合的に評価する。				
使用教材	家庭基礎 - すこやかに生きる - (一橋出版)、課題プリント				
その他					

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	家庭科を学ぶにあたって 人の一生と家族	発達を続ける人の一生	4	ライフステージの課題や特徴を理解し家族、家庭の在り方や子どもの発達、高齢者の福祉について考える。	始業式
5		生活単位としての家族	5	家族、家庭について、文化、歴史、法律の面から考え、社会とのかかわりを理解する。	中間考査
6	食生活における健康と安全	生活を設計する	3	1日24時間を生活行動にバランスよく配分することの重要性和生活時間の自己点検 健康な生活の基本である食生活について、自分の食生活の点検からはじめ、食生活の問題を考える。	
4		食生活をつみとめる			
7		食べ物を栄養的にみる	5	栄養素の種類と機能、栄養所要量、食品群別摂取量のめやすなどの基礎的な知識を学び、バランスのとれた食生活の重要性を理解し、またライフステージごとの栄養的特徴について理解する。	期末考査
2		食品を手に入れる			終業式 夏期補習
8	ホームプロジェクト	食生活調査 食品を安全に保つ 食事をつくる	2	夏休みにホームプロジェクトの課題をする。 食品の腐敗や変敗、食中毒、食品添加物などについて理解し、安全で衛生的な食生活が営むことができるようにする。 日常用いられている食品の栄養的特徴と調理上の性質について理解し、献立作成に生かすとともに、調理の要点と調理の基礎的技術を身につける。また食事マナーを知り、楽しく食事をする工夫をする。	始業式
9	子どもと高齢者の生活と福祉	子どもとその発達	3	乳幼児の心身の発達の特徴を理解し、子育ての責任を果たす親の役割、子どもの健やかな成長のための福祉について理解する。	
3		子どもの生活			
10		高齢者を知る 高齢者の生活 高齢者の福祉	2 2 2	バリアフリーな住居を通じて高齢者の心身の特徴を理解し、わが国の高齢化の課題と法律や制度の趣旨と概要について理解し、高齢者福祉の在り方について考える。	中間考査
11	消費生活と資源・環境	社会の変化と消費行動 消費者問題とその解決方法 家庭経済と生活設計	2	家庭の経済生活に関する基礎的事項を理解し、社会の変化に伴う消費構造の変化、販売方法の複雑化、多様化、様々な消費問題を理解する。	
3					
2					
12		環境にやさしい生活を考える	3	消費問題のまとめとして自分たちや未来の世代の環境について自らの消費活動や生活について考える。	期末考査 終業式
1	衣生活と住生活における健康と安全	衣生活をつみとめる	3	被服の保健衛生的機能と社会的機能、被服材料の性能とかかわらせた適切な選択や管理などに関する基礎的な知識と技術を習得する。衣服の購入を通して消費生活の問題について考える。	始業式
3		衣服の材料を知る			
2		衣服を選び整える 被服製作	3 6		期末考査
3		住生活をつみとめる 安全・健康・快適に住む 学習の発展のために	3 3 2	住居の機能、住生活と健康、安全などに関する基礎的な知識と技術を身につける。	終業式

教科名	情報	科目名	情報A	単位数	2
対象学年	第1学年 普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	クラス単位
科目の目標	コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を修得させる。大学進学後に必要となるコンピュータリテラシーを身に付ける。				
学習内容の概要	アプリケーションソフトの操作方法を通じて、コンピュータのしくみや情報を収集・処理・発信するための基本操作を習得する。情報モラルなど情報化社会での必要な知識や最近の新聞などで取り上げられれている情報関連の問題を考えさせる。				
学習方法	教室での講義とコンピュータ室での実習を組み合わせる。 コンピュータの実習課題が遅れている生徒のために昼休憩にコンピュータが使えるよう配慮する。				
評価の観点・評価方法	各学期に1回(期末)に実技・筆記試験をおこなう。 本校の平常点に実習課題の評価を含める。 授業態度や意欲、課題提出や発表を総合的に評価する。				
使用教材	教科書 実教出版 高校情報A 副教材 実教出版 高校情報A 学習ノート				
その他	実習(作品)課題及び提出課題がすべて提出されない場合は単位を認定しない。				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	私たちと情報社会  情報とネットワークの活用	情報社会	10	情報や情報社会についての意味を理解する メディアの種類と特徴を理解する 情報の信ぴょう性と情報の公開と開示について理解する 個人情報保護法について理解する 個人情報の漏えいの実態、防止策について学ぶ ネチケットについて学ぶ	入学式 新入生宿泊   期末考査 終業式
5		情報社会のなかの個人			
6		情報検索と収集	16	Webページの閲覧方法を理解する 検索エンジンについて学ぶ 圧縮について理解する 機種依存文字について学ぶ	
7		情報の伝達		フォルダを用いて情報を階層化し整理する ファイルの形式について学ぶ コンピュータ犯罪の実態を知る パスワード、コンピュータウイルスとワクセン、暗号化などについて学ぶ 著作権や肖像権等の侵害例を知る	
7		情報の取り決め			
7		ネットワーク利用の心がまえ			
8					
9	マルチメディアの活用	情報の統合	18	周辺機器の文類とその取扱いについて学ぶ インタフェースについて学ぶ OSと応用ソフトの働きを理解する 応用ソフトを使い、情報を処理する メディアの統合について学ぶ	始業式  全商情報処理検定
10		情報の発信		プレゼンテーションについて学ぶ プレゼンテーションソフトを使う Webページについて学ぶ	
11		問題解決と情報活用	問題解決の方法と手順を理解する 表計算ソフトの基本機能について学ぶ 関数を理解する		
12		問題解決の実戦	10	表計算ソフトを使い問題解決を試みる	期末考査 終業式
1	情報機器の発達とそのしくみ	メディアのしくみ	18	アナログとデジタルの意味を理解する 2進数について学ぶ デジタルの特徴について理解する コンピュータの基本構成について学ぶ インターネットについて学ぶ	始業式  全商情報処理検定
2		コンピュータとネットワークのしくみ			
3		情報の歴史とその未来		通信とコンピュータの発達の過程を理解する 情報技術による社会変革について概観する ユビキタス社会の要素や技術について学ぶ	

平成21年度普通科  
「総合的な学習の時間」実施計画  
[時間割分のみ]

月	日	曜	1年	
4	13	月		
	27	月		
5	11	月	2	新しいスタートにあたって
	18	月	3	学習目標を設定しよう
	25	月	4	進路探しを始めよう
6	8	月	5	自分のことをもっと知ろう
	15	月	6	自分史を書いてみよう
	22	月	7	仕事研究をしよう1
	29	月	8	期末考査
7	6	月	9	長期休暇を有意義に過ごそう
8	31	月	10	オープンキャンパスに参加しよう
9	7	月	11	校外授業
	14	月	12	文理選択について考えよう
	28	月	13	文理適性検査
10	5	月	14	仕事研究をしよう2
	19	月	15	職業人に話を聞こう
	26	月	16	学問研究をしよう
11	2	月	17	社会について知ろう
	9	月	18	大学について知ろう
	16	月	19	大学について知ろう
	30	月	20	期末考査
12	7	月	21	進研模試の結果を振り返ろう
	14	月	22	面談を有効に活用しよう
1	18	月	23	学習目標を設定しよう
	25	月	24	進研1月記述
2	8	月	25	大学入試について知ろう
	15	月	26	期末考査
	22	月	27	1年間を振り返ろう